

[日時]

2019年11月1日 [金]
18:00-20:00 (17:30 開場)

※ 入場無料、予約不要、一般の方も聴講可

現代フィクションの可能性

山本 貴光

松永 伸司

久保 昭博

武田 将明

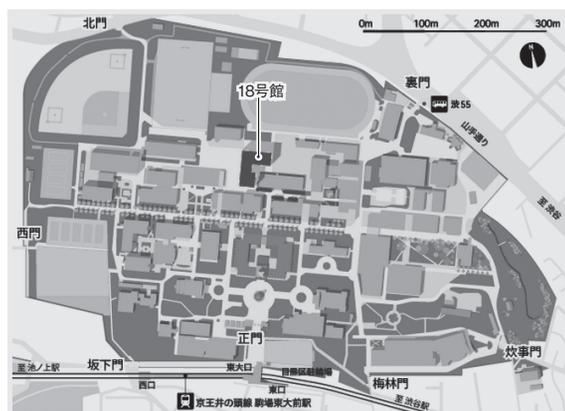
情報化の進む現代において、フィクションの役割はいかに変化しているのか。また、そうした変化の中で、現代フィクションの可能性、あるいは危険性はどこにあるのか。

『文学問題 (F+f)+』をはじめ、文学理論・メディア論に関する様々な著作を発表している山本貴光、『ビデオゲームの美学』などの著作で、現代世界におけるゲームの文化的な意義について深い洞察を示している松永伸司、ジャン＝マリー・シェフェール『なぜフィクションか』を訳し、最新のフィクション論に詳しい久保昭博を招き、徹底的に討議する。

[会場・地図]

東京大学駒場キャンパス18号館 4階コラボレーションルーム1

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1 TEL: 03-3812-2111 (代表)



[問い合わせ先]

武田将明 (takeda@boz.c.u-tokyo.ac.jp)

[主催]

科学研究費基盤 B (世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究)、
教養学部創立 70 周年記念事業

[登壇者およびプロフィール]

山本貴光
文筆家・ゲーム作家。専門はゲーム開発、学術史。主な著書に『文学問題 (F+f)+』(幻戯書房、2017)、『「百学連環」を読む』(三省堂、2016)、『文体の科学』(新潮社、2014) など。

松永伸司
首都大学東京非常勤講師など。専門はゲーム研究と美学。主な著書に『ビデオゲームの美学』(慶應義塾大学出版会、2018)、訳書にイエスパー・ユール『ハーフリアル』(ニューゲームズオーダー、2016)、ネルソン・グッドマン『芸術の言語』(慶應義塾大学出版会、2017) など。

久保昭博
関西学院大学教授。専門は文学理論・フランス文学。主要な著書に『表象の傷』(人文書院、2011)、訳書にジャン＝マリー・シェフェール『なぜフィクションか?』(慶應義塾大学出版、2019)、レーモン・クノー『はまむぎ』(水声社、2012) など。

[司会]

武田将明
東京大学准教授、専門はイギリス文学研究。

科研費
KAKENHI

東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部